

因島業界動向

2022年10月～12月

(令和4年10月～12月)

因島商工会議所

【因島経済動向調査(DI方式)報告】

(調査の概要)

1. 調査方法 FAX送信・オンライン回答によるアンケート調査(景気観測調査の回答使用)
2. 調査内容 ①景況のほか、生産額・売上額など6項目について、令和4年12月の状況と前年同月調査との比較
②同一項目における令和5年1月～3月の先行き見通し
3. 調査時期 12月初旬～下旬
4. 調査対象 50社(製造業：17社 非製造業：33社)
5. 回収状況 回答 34社(製造業：16社 非製造業：18社)
回答率 68.0%

DI：各調査項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準に、プラスの値は景気の上向き傾向（「良い」）をあらわす回答割合が多いことを示し、マイナスの値は景気の下向き傾向（「悪い」）をあらわす回答割合が多いことを示す。

DI = (増加・好転など「良い」の回答割合) - (減少・悪化など「悪い」の回答割合)

※注 原材料・商品仕入価格：DI = (下降) - (上昇)

製品・商品在庫：DI = (不足) - (過剰)

従業員：DI = (不足) - (過剰)

～因島景況の総括 令和4年12月期～

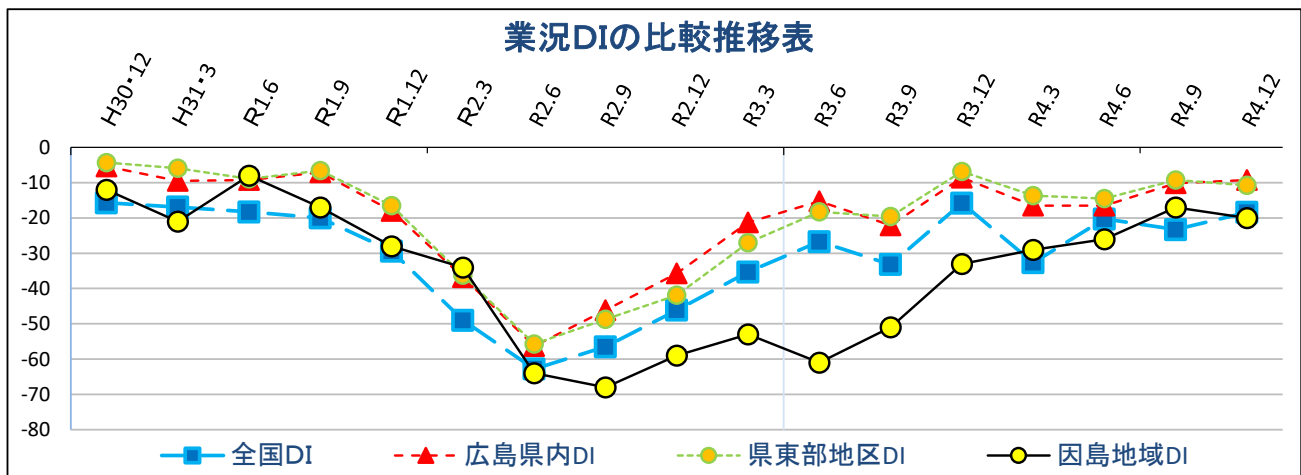
全業種DI（良い－悪い）は、▲20（前回9月調査▲17、R3.12月調査▲33）で前回調査から比較すると▲3ポイントとなった。

製造業では、造船・同関連：+25（前回9月調査+25）と前回調査比と横ばい。その他機械金属：+20（前回9月調査+25）、食品等▲71（前回9月調査▲43）で、製造業DIは▲19（前回9月調査▲7、R3.12月調査▲27）と▲12ポイントとなった。

非製造業では、建設業：▲25（前回9月調査▲25）、卸売業：0（前回9月調査▲25）、小売業：▲67（前回9月調査▲67）、運輸・サービス業：▲16（前回9月調査▲12）で、非製造業DIは▲22（前回9月調査▲26、R3.12月調査▲36）で前回調査より+4ポイントとなった。

【製造業】食品製造・印刷関連では、地元資本スーパーの閉店が大きく影響した。造船関連においては、先行きが不透明ながらも新規受注量は複数隻確保している事業所もあり、前期と大差なく推移している。

【非製造業】食品小売において、食品製造と同様に仕入先の閉店による受注減が大きく影響した。ホテル関係は全国支援制により堅調を維持している。



【令和4年12月期 景況DI】

《上段：当月調査分、中断：前回調査分、下段：R3.12月》

| | 好転 | 横ばい | 悪化 | DIポイント |
|-----------------|------------|------------|------------|--------------|
| 全業種(当月) | 18% | 44% | 38% | ▲20.0 |
| (前回) | 18% | 47% | 35% | ▲17.0 |
| (前年同月) | 8% | 51% | 41% | ▲33.0 |
| 製造業(当月) | 19% | 44% | 38% | ▲19.0 |
| (前回) | 20% | 53% | 27% | ▲7.0 |
| (前年同月) | 13% | 47% | 40% | ▲27.0 |
| 非製造業(当月) | 17% | 44% | 39% | ▲22.0 |
| (前回) | 16% | 42% | 42% | ▲26.0 |
| (前年同月) | 9% | 46% | 45% | ▲36.0 |

【令和5年1月～3月の先行き見通し 因島景況】

全業種DI（良い－悪い）は▲23（前回9月調査▲29、R3.12月調査▲33）と前回調査から+6ポイントの見通しである。

製造業では、造船・同関連：+25（前回9月調査+50）と▲25ポイント、機械金属：+40（前回9月調査+25）、食品等▲71（前回9月調査▲43）で、製造業DIは▲12（前回9月調査 0、R3.12月調査▲20）で▲12ポイントの見通し。

非製造業では、建設業：▲25（前回9月調査▲25）、卸売業：▲20（前回9月調査▲75）、小売業：▲33（前回9月調査▲67）、運輸・サービス業：▲50（前回9月調査▲50）で、非製造業DIは▲33（前回9月調査▲53、R3.12月調査▲40）で+20ポイントの見通しである。

【製造業】一般商船において、海上運賃が下降に転じており、鋼材の高騰や燃料の方向性を様子見る船主が多くなった事で建造意欲が下がっており、造船業界の先行きが不透明な状態は継続する見通し。

【非製造業】小売業種において、海外より輸入している一部商品の納入時期の大幅な遅れが改善される予定が立っておらず、供給量の減少による業況の悪化は今後も継続する見通しである。

【令和5年1月～3月の先行き見通し 景況DI】

《上段：当月調査分、中断：前回調査分、下段：R3.12月》

| | 好転 | 横ばい | 悪化 | DIポイント |
|-----------------|------------|------------|------------|--------------|
| 全業種(当月) | 12% | 50% | 35% | ▲23.0 |
| (前回) | 15% | 41% | 44% | ▲29.0 |
| (前年同月) | 5% | 57% | 38% | ▲33.0 |
| 製造業(当月) | 19% | 44% | 31% | ▲12.0 |
| (前回) | 27% | 46% | 27% | 0.0 |
| (前年同月) | 7% | 66% | 27% | ▲20.0 |
| 非製造業(当月) | 6% | 56% | 39% | ▲33.0 |
| (前回) | 5% | 37% | 58% | ▲53.0 |
| (前年同月) | 5% | 50% | 45% | ▲40.0 |

～因島生産額・売上の総括 令和4年12月期～

全業種DI（良い－悪い）は▲9（前回9月調査▲11、R3.12月調査▲29）で+2ポイントとなった。

製造業では、造船・同関連：+50（前回9月調査 0）、機械金属：+80（前回9月調査+50）、食品等▲71（前回9月調査▲43）で、製造業DIは+7（前回9月調査▲6、R3.12月調査▲20）で+13ポイントとなった。

非製造業では、建設業：▲50（前回9月調査▲25）、卸売業：▲20（前回9月調査▲25）、小売業：▲34（前回9月調査▲67）、運輸・サービス業：0（前回9月調査+13）で、非製造業DIは▲22（前回9月調査▲16、R3.12月調査▲36）で、前回調査から▲6ポイントとなった。

【製造業】大幅な円安により、造船業を中心に新造船等の受注や外国との為替差益により増収となったものの、造船から修繕へ移行した会社が全国的に増加の傾向にあり、修繕部門での収益は厳しくなっている。

【非製造業】原材料価格の高騰により、非製造業界全体で前期より悪化の回答が多く見られた。卸売業では一部では物価の上昇に伴う収益増も見られたが、価格転嫁が難しい商品の取扱や取引先の仕事量減少による売上減も依然多い。

【令和4年12月期 売上DI】

《上段：当月調査分、中断：前回調査分、下段：R3.12月》

| | 好転 | 横ばい | 悪化 | DIポイント |
|-----------------|------------|------------|------------|--------------|
| 全業種(当月) | 26% | 38% | 35% | ▲9.0 |
| (前回) | 21% | 47% | 32% | ▲11.0 |
| (前年同月) | 14% | 43% | 43% | ▲29.0 |
| 製造業(当月) | 38% | 31% | 31% | 7.0 |
| (前回) | 27% | 40% | 33% | ▲6.0 |
| (前年同月) | 20% | 40% | 40% | ▲20.0 |
| 非製造業(当月) | 17% | 44% | 39% | ▲22.0 |
| (前回) | 16% | 52% | 32% | ▲16.0 |
| (前年同月) | 9% | 46% | 45% | ▲36.0 |

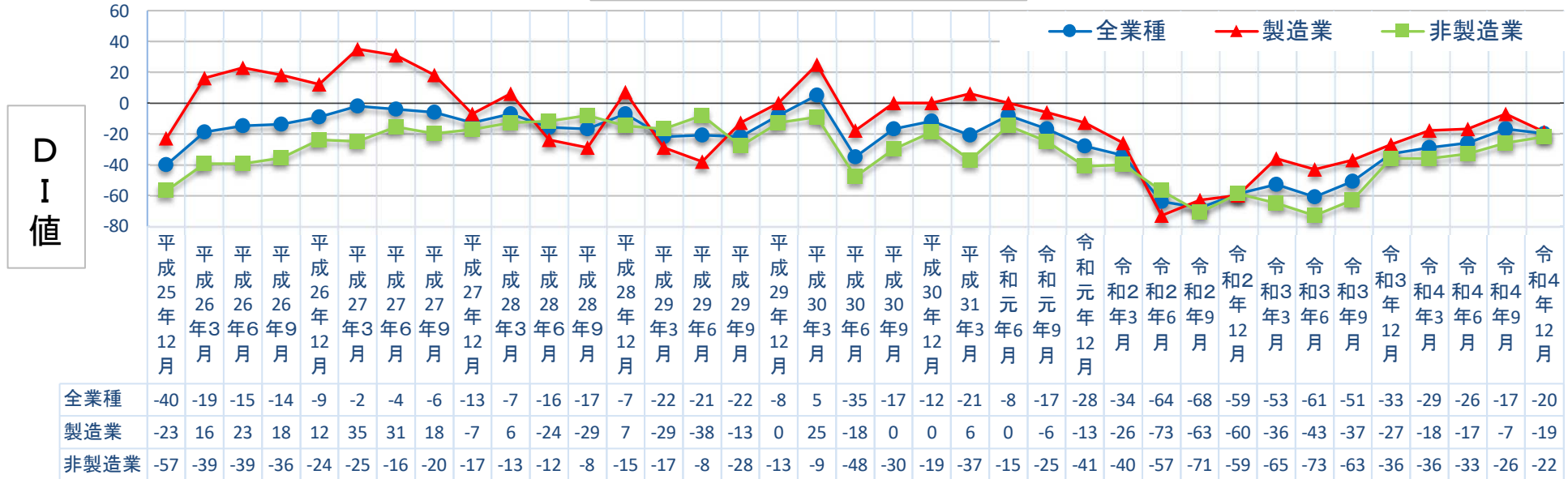
【令和5年 1月～3月の先行き見通し】

全業種DI（良い－悪い）は▲23（前回9月調査▲20、R3.12月調査▲24）で前回調査から見ると▲3ポイントの見通しである。

製造業では造船・同関連：+50（前回9月調査+50）、機械金属：+20（前回9月調査 0）、食品等▲57（前回9月調査▲29）で製造業DIは▲6（前回9月調査 0、R3.12月調査▲7）で前回調査より▲6ポイントの見通し。

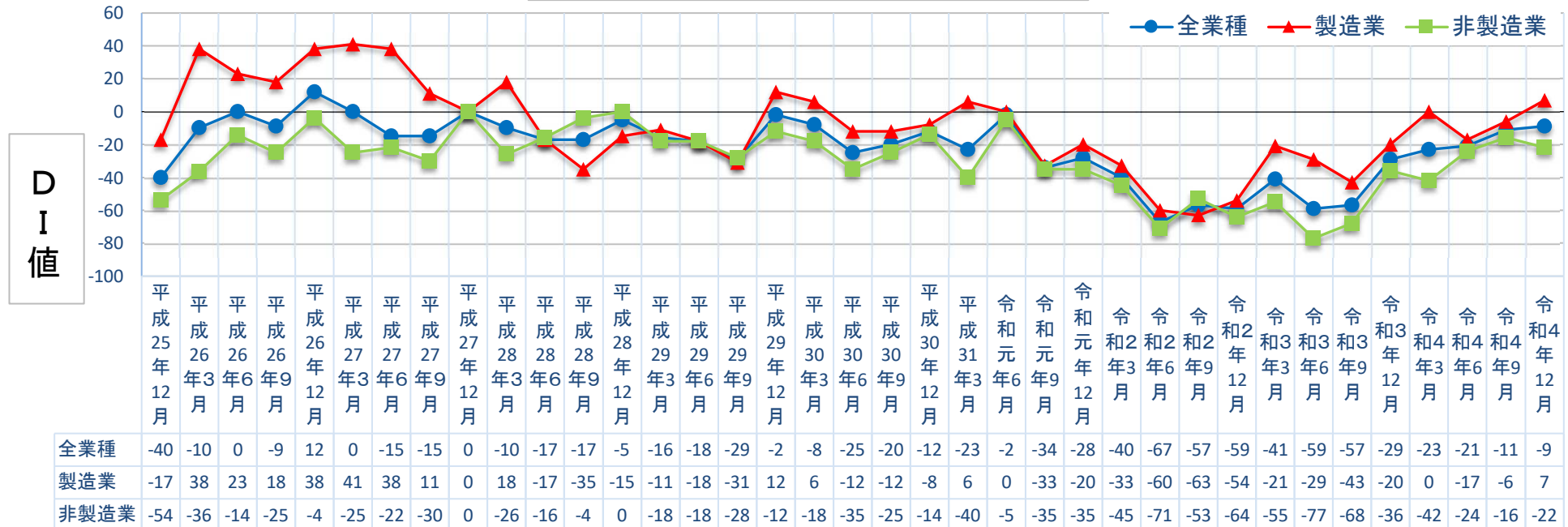
非製造業では、建設業：▲25（前回9月調査▲25）、卸売業：▲40（前回9月調査▲75）、小売業：▲33（前回9月調査▲67）、運輸・サービス業：▲50（前回9月調査▲13）で非製造業DIは▲39（前回9月調査▲36、

因島地域の景況感の推移



3

因島地域の生産額・売上額の推移



2. 【在因島金融機関取扱い(残高)状況】

(単位:百万円、%)

| 項目 年月 | | 残高合計 | | | | | |
|----------|----------|---------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | | 預金 | 前年同月比 | 貸出金 | 前年同月比 | 預貸率 | 前年同月差 |
| R 3 年度末 | | 138,465 | 104.3% | 52,814 | 101.4% | 38.1% | -1.2 |
| R4 年度 | 第1 / 四期末 | 138,576 | 103.1% | 52,632 | 100.3% | 38.0% | -1.0 |
| | 第2 / 四期末 | 138,503 | 101.7% | 52,875 | 102.1% | 38.2% | 0.2 |
| | 第3 / 四期末 | 138,158 | 100.4% | 53,698 | 101.7% | 38.9% | 0.5 |

地方銀行2行、信用組合1行、計3行の合計。※第3四期末は暫定値

3. 【企業倒産状況】(負債総額1,000万円以上)

(単位:件、百万円)

| 項目 年月 | | 倒産件数 | | 負債総額 | | 備考 |
|----------|----------|------|--------|------|--------|-----|
| | | 件数 | 前年比(%) | 金額 | 前年比(%) | |
| R 3 年度総数 | | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 年度計 |
| R4 年度 | 第1 / 四期末 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 期計 |
| | 第2 / 四期末 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | " |
| | 第3 / 四期末 | 1 | 100.0 | 531 | 531.0 | " |

(株東京商工リサーチ広島支社調)

4. 【月間有効求人数・月間求職者数・求人倍率】

(単位:人、倍)

| 項目 年月 | | 有効求人数 | | 有効求職者数 | | 有効求人倍率 | | 備考 |
|----------|---------|-------|--------|--------|--------|--------|------|----|
| | | 人数 | 前年比(%) | 人数 | 前年比(%) | 倍率 | 前年 | |
| R 3 年度平均 | | 2,966 | 108.7% | 2,090 | 102.3% | 1.42 | 1.34 | |
| R4 年度 | 第1 / 四期 | 2,832 | 99.8% | 2,124 | 91.0% | 1.33 | 0.12 | |
| | 第2 / 四期 | 3,059 | 106.1% | 1,962 | 94.0% | 1.56 | 0.18 | |
| | 第3 / 四期 | 3,208 | 106.6% | 1,839 | 91.8% | 1.74 | 0.24 | |

注:新規学卒者を除き、パートを含む。月平均は四捨五入。

(ハローワーク尾道調)

※第3四期は暫定値

5.【経営改善資金推薦状況】

(単位：件、万)

| 年 月 | 項 目 | 推 薦 | | | | | 決 定 | | | |
|-----------|--------|-----|---------|--------|---------|--------|-------|----|--------|---------|
| | | 件数 | 前年比 (%) | 金 額 | 前年比 (%) | 運 転 | 設 備 | 件数 | 金 額 | 前年比 (%) |
| 令和3年度 | | 22 | 61.1 | 20,480 | 65.1 | 17,423 | 3,057 | 23 | 20,680 | 70.2 |
| R4 年 度 | 第1／四期末 | 2 | 28.6 | 1,800 | 37.3 | 1,560 | 240 | 2 | 1,400 | 27.9 |
| | 第2／四期末 | 4 | 80.0 | 3,470 | 74.3 | 2,650 | 820 | 4 | 3,470 | 76.3 |
| | 第3／四期末 | 4 | 133.3 | 1,900 | 47.5 | 1,760 | 140 | 3 | 1,600 | 38.8 |

(因島商工会議所調)

6.【因島商工会議所会員数】

(単位：者、社)

| 区 分 | 9月30日現在 会 員 数 | 新規会員数 | 脱退者数 | 12月31日現在 会 員 数 |
|-----|------------------|-------|------|-------------------|
| 法 人 | 486 | 2 | 8 | 480 |
| 個 人 | 454 | 2 | 11 | 445 |
| 合 計 | 940 | 4 | 19 | 925 |

※注：組織変更含む

7.【今期のアンケート調査結果】

◆今期のアンケート調査

回答件数 28件

新型コロナウイルスの影響が続く中、【正社員における2022年度（2022年4月～2023年3月）の賃上げ（定期昇給、ベースアップ、手当の新設・増額、一時金（賞与）の増額）の状況】について、「賃金は同水準を維持する」の回答が12社と前年調査時と同様に最多であったが、「業績が改善しているため賃上げを実行した（予定を含む）」に4社の回答があり、コロナ禍開始後の調査において最多の回答となった。

